

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2375700610
法人名	有限会社 福田サービス
事業所名	内海ホーム 気まま
訪問調査日	平成 19 年 12 月 25 日
評価確定日	平成 20 年 1 月 31 日
評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2375700610
法人名	有限会社 福田サービス
事業所名	内海ホーム 気まま
所在地	〒470-3321 知多郡南知多町大字内海字城下64-1 (電話)0569-62-3760

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	名古屋市中村区松原町1丁目24番地 COMBi本陣 N203号室		
訪問調査日	平成19年12月25日	評価確定日	平成20年1月31日

【情報提供票より】(年 月 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 12 年 7 月 14 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	4 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 6 人

(2)建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての 階 ~ 2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(3年)	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,100 円			

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.4 歳	最低	61 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	トータルスキンクリニック
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

身近な人を通して見た介護サービスのあり方が、代表者が介護事業を始めるきっかけとなり、小規模で家庭的な介護をしようと、自宅を改修して始めたのがホームの原点である。「気まま」は1階にデイサービス、2階がグループホームという造り。利用者のニーズに応じて、訪問介護、介護タクシー、デイサービスと事業を拡大している柔軟性の高いホームである。ホームでは清掃を外部委託している。これは理念である「やすらぎここにあり、気ままな暮らし」を実践するために、職員が利用者と共にする時間を重視した表われである。また24時間協力医が対応できる医療との連携体制をとっており、毎週職員が看護師の問診に立ち合うなど、知識や技術のレベルの向上に努めている。最後までホームで暮らせる安心感を大切に、ホームでの看取りも行なわれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で指摘された課題を改善するために、主に次の取り組みを行った。</p> <p>①階段の段差を判りやすくするために、緑色でステップ表示を貼付し、安全確保に努める。</p> <p>②トイレの扉に指を挟まないように、3枚扉から2枚扉に改修し、安全性を高めた。</p> <p>③利用者の居室以外での居場所づくりとして、適所に遊びの椅子を配置し、自由にくつろげるようにしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員が全項目に対して取り組んでおり、管理者がその評価を取りまとめ、現状の問題点や職員の意識の把握を行なっている。職員は、「この評価を利用者のために活かしたい」と評価を実施する意義を実感し、日頃の介護の見直しに生かしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、近況報告、「口腔ケア」、「交通安全」や「地震・火災」等それぞれの専門家の講話を聞いたり、グループホームについての質疑応答や意見交換を、時にはおやつを一緒に食べながら行ったりと、積極的に地域との交流が行なわれている。最近の会議では、夜勤体制と緊急時の対応についての議題が出ている。また、ホームでの課題だけでなく、地域の困り事なども議題に上がり、話し合われている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>面会時間は特に設けておらず、家族が来たときは歓迎の態度を示すよう心がけているため、ホームへ気軽に訪ねて行きやすいと思っている家族が多く、代表者や管理者は家族との信頼関係が築けていることがうかがえる。基本的には、家族からの相談・苦情等の担当者は代表者や管理者であるが、職員が受けた場合でも担当者に伝え対応している。内容によっては、会議において広く意見を集め、運営に反映させようとしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩等で近所の人と出会うと挨拶や立ち話をしたり、地域の清掃活動に利用者や職員が参加するなど、普段から地域との交流に努めている。また学生ボランティアの受け入れを通して、地域の学校とも連携を図っている。地域の行事には積極的に参加しているが、これからは地域へ出て行くだけでなく、ホーム開催の行事等に地域の人の参加を呼びかけて、ホームでの交流も考えている。その仕掛けのひとつに、ホームに立ち寄りやすいように建物の外に自動販売機を設置している。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	『やすらぎここにあり、気ままな暮らし』という理念を玄関に飾り、その実現を全力でお手伝いさせていただくことをホームの目標としている。具体的には、利用者の「わがまま・きまま」をできる限り通させてあげ、尊厳を保ちながら、その人らしい生活が送れることを目指している。	○	これまでの「家庭的な環境の下、住み慣れた環境での生活を継続できるようにすることを目指した」理念に加え、地域との関係性を重視した地域密着型サービスとしての理念を入れることが望ましい。地域の認知症で困っている方々の相談拠点として、地域に開いていく理念の確立に期待する。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関、階段壁面、リビングなど目のつきやすい場所に掲示されており、職員採用時には、理念が明記された資料を渡し伝え、日々の業務で課題が発生するたびに、理念に立ち返って判断し、実践に向けて取り組んでいる。また月に1度の研修時にも理念向け気づきを報告しあっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、地元の祭りでは山車が近くに来てくれ、利用者は地元の人と一緒に行事を楽しまれている。行事の際には、職員が地域に手伝いに出かけ、利用者も町内のゴミ出しや草刈りなどの奉仕活動に参加。夏休みの中学生ボランティアを受け入れるなど地域の人と交流している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が全項目に対して取り組んでいる。採用されて間のない職員でさえ、「取り組むにあたっての視点を学んだ」、「利用者のために活かしたい」と評価の意義を実感している。評価を活かした改善としては、事故防止の面での取り組みと理念を実施するための取り組みがされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者、家族代表、地域住民代表、行政の職員、福祉サービスに詳しい者等が出席し、2か月に1回の定例で実施している。会議では、近況報告、交通安全や地震・火災についての講話、出席者からの質疑応答、おやつを食べながらの交流などが行なわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの現状や運営上の課題について、また他市町村の利用希望者に関する事など、町の担当者に相談している。 また月に1回行われる地域の包括ケア会議への参加を通して、町と連携する体制をとっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族等の来訪時に、ホームでの様子を伝えたり、ふだんの様子を伝える写真等を手渡している。また来訪されない家族には、隔月発行のホーム新聞を送ったり、電話で近況を伝えている。金銭管理については、低額の買い物は事業所が立て替え、請求時に領収証を添えて報告している。	○	現在、ホームページの開設を準備中である。職員の紹介をしたりなど、ホームの様子を伝える媒介にしようと力を入れている。これは、家族等への報告の一助になるものと思われるため、これからのホームページの活用に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や介護相談員等の受け入れはないが、家族との信頼関係は深いものがある。運営推進会議には家族代表も参加しており、その場で意見等を聴き、運営に反映させようとしている。面会時間の制限はしておらず、家族等からの要望や意見は、業務日誌に記入して職員間で共有している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	母体の法人は複数の事業を行なっているが、基本的には事業所ごとに職員の固定を原則としながらも、同じ法人の職員同士で協力し合う体制をとっている。勤務年数が長く、利用者との信頼関係の築けている職員は異動させず、中心に置いているため、職員が代わる時は、ベテラン職員が間に入って利用者へ影響を与えないように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者とスタッフの代表で相談し、年間の研修計画が立てられている。外部での研修や講演会等の案内は掲示され、希望者又は段階に応じた職員が参加できるように配慮している。研修は勤務扱いで、交通費等も支給。研修後は、参加者から研修報告書が提出され、会議等での報告や職員間での回覧を行うことで、研修内容を共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム連絡協議会に加盟し、管理者や職員は研修に参加するなど、他グループホームの情報収集を行っている。地域のグループホームで作る協議会等はないが、管理者は行政が行う包括ケア会議に参加しており、その場を通して同業者と交流する機会は持っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申込みの段階から本人や家族からじっくり話を聞き、顔馴染みの関係を築こうとしている。また、入居前に本人に見学に来てもらい、リビングでお茶を飲みながら一緒に過ごしてもらうなど、少しずつ場の雰囲気に馴染めるように配慮している。同ホームがある1階でデイサービスを行なっているが、その利用者が馴染んだ状態で入居に至ったケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	あみものがうまい利用者に職員があみものを習うなど、利用者の得意としていることを教わったり、また人生哲学を含蓄のある言葉で教えられたりと、職員が利用者から日々学ぶことは多い。またゴミ出し、草取りなどの奉仕活動を一緒に行ったり、祭りや盆踊り、遠足などの行事では、職員が利用者と一緒に楽しんでいる様子が見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に、これまでの習慣や好み、暮らし方、今後の希望などを家族や本人から聞き取っている。入居後は、日々の様子を観ることで好みなどを把握し、業務日誌に記入して情報を共有。把握が困難な場合は、家族等関係者から聴き取り、一職員で判断せず全体の意見を聞くようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画のためだけの会議は開催していないが、日々の職員の話や本人、家族からの話と業務日誌等の記録を照らし合わせながら、介護計画を作成している。また日々の気づきを共有するため、業務日誌とは別にミニ業務日誌を職員に渡し、気づいたことを提出してもらおう仕組みをとっている。	○	今の介護内容を全員が同じ目線で見直し、改善していくために、介護計画をたてるための意見交換となるような場を持つことが望ましい。家族の要望や意見についても、普段の話の中で聴き取る方法だけでなく、アンケート形式での聞き取りなど、介護計画に参画している意識が持てるような工夫を期待したい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者は、7項目ある日常生活動作の状態と意欲等の状態を把握しながら、月に1回評価を実施し、必要があればすぐに見直しができる体制をとっている。定期的な見直しについては、業務日誌等の記録や職員から聴き取った内容と評価に基づいて、3か月ごとに計画の見直しを行なっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	24時間緊急対応できるように、医師や医療機関と連携体制をとり、体調変化については24時間の電話相談ができるような仕組みを作っている。理美容サービス、各種行政への申請手続きの代行サービスは、無料で行なっている。また個人的に車を使った移動が必要な場合は、介護タクシーの手配を行なっている。	○	地域の認知症で苦しむ高齢者や家族が、状況に応じて気軽に事業所を利用できるように、グループホームでの共用型デイサービスやショートステイの事業の検討を行っている点は評価したい。早い時期の実現に期待したい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	整形外科及び内科の協力医が隔週で往診に来ており、看護師による訪問看護も毎週行っている。協力医は他の専門医とも連携しているため、眼科等は月に一回受診できる。入居時に希望を聞き、介護タクシー等の支援と連携することで、昔からのかかりつけ医を受診している利用者もいる。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	最後までグループホームで暮らす安心感を重視し、ターミナルケアを行う方針である。そのために「重度化した場合や看取りに関する指針について」の文書を、契約時に家族に渡し説明している。看護師の問診に職員も立ち合っており、利用者の状態に応じて方針を話し合い確認し合っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	本人が意思決定できるよう、言葉かけや対応は、職員の決めつけや指示的にならないように気を配っている。「個人情報の取り扱いについて」の文書を契約時に渡して説明し、記録等の個人情報は、限られた人しか入れない施錠された部屋に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴、起床や就寝は本人のペースに任せており、お風呂はいつでも、何回でも入れるように支援している。一人で散歩に出かけられる方がいたり、居室で横になったり、テレビを見たりと、自由に過ごしている。行きつけの店に行くなど、個別の外出支援についても、希望に添うように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食と夕食は、法人の他グループホームで作った食事を配達してもらい利用しているが、盛り付け、食事、片づけ、食器拭き等は一緒に行なっている。手作りおやつを利用者と一緒にも作ることも。正月にはオードブルを取って、いつもと違った雰囲気のもと、食事を楽しんでいる。	○	朝食作りは、毎日ホーム内で行われているが、昼食、夕食は、気からの協力である。今後は、「食」を通じた様々な取り組みを活かすためにも、月に何回かはホーム内で利用者の力を活かしながら食事を作るなどの見直しにも期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて、早朝に入られる方、1日2回の方、毎日入られる方など、個別に支援している。入浴を拒む人には、言葉かけや職員を代えての誘導等の工夫が試みられている。冬期は数種類の入浴剤を活用したり、入浴時に話し相手になったりして、入浴を楽しむ支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常的な役割として、洗濯物干しや取り込み、たたみ、食事の盛り付け、食器拭き、畑の草取りなど、個々の能力が発揮できる場面を作っている。おやつ作りはほぼ毎日実施。季節ごとの遠出の外出やボランティアとのカラオケなど、楽しみごとの機会も積極的に設けている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節を感じながら体を動かしてもらえるように、近所の公園に散歩に出かける機会を、一週間で全員がもてるようにしている。また近くのスーパーへの買い物は、週に1回実施。歩行が困難な方には、車椅子を使って外出できるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は鍵をかけていないが、グループホームは建物の2階にあって、ドアで階段が見えにくい造りになっているが、外出したいときには、エレベーター・階段で自由に出入りできるようになっている。車椅子の方はエレベーターで移動できるようになっている。リビングから利用者の様子が把握できる構造になっており、見守りがしやすい。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回、消防署の協力を得て、通報・消火・避難訓練と消火器の実演を行なっている。また災害時緊急対応マニュアルがあり、速やかに対応できる体制は整っている。運営推進会議においても、地域の代表や消防署の職員とともに「地震・火災」について話し合いをもった。	○	いざという時に備えて、非常用食料や飲料水の備蓄、簡易トイレ等の物品を備えられることが望ましい。また、地域に密着した事業所として、今後は災害時に地域住民との相互協力がとれる体制づくりに期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	「食」に対する利用者へのアンケートや日々の記録から、個々の嗜好や摂取量を把握し、栄養士が食事の量や栄養のバランスを考えた献立にしている。飲み込み状態のよくない人には、キザミ食やトロミ食にするなど、個々に合わせた支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓が2箇所あり、リビングと台所が一体で開放感があり、季節に合った飾りや花が置かれている。臭いがこもらないように、1日3回窓を開けて換気しているが、臭気がこもりやすく少し気になった。居間ではリラックスできるように音楽を流している。以前はメダカを飼うなど、小動物がいる暮らしを実現していた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全面や衛生面に配慮しながら、本人や家族の希望に添うように家具の持ち込みや配置を工夫している。中には、本人や家族と相談しながら、仏壇、テレビ、冷蔵庫、トースターなど、希望の品物が持ち込まれている居室もある。		